

施策評価調書(2年度実績)

				施策コード	Ⅱ-1-(1)	
政策体系	施策名	構造改革の更なる加速	所管部局名	農林水産部		
	政策名	挑戦と努力が報われる農林水産業の実現	関係部局名	農林水産部		
				長期総合計画頁	77	

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	水田の畑地化による 高収益な園芸品目等への生産転換	全国トップレベルの肉用牛産地づくり (おおいた和牛日本一プロジェクト)	循環型林業の確立による 林業・木材産業の成長産業化	水産業の資源管理の強化と成長産業化
取組No.	⑤			
取組項目	スマート農林水産業の実現			

【Ⅱ. 目標指標】

	指 標	関連する 取組No.	基準値		2年度			6年度	目標達成度(%)					
			年度	基準値	目標値	実績値	達成度	目標値	25	50	75	100	125	
i	農林水産業による創出額(億円)	①②③ ④⑤	H25	2,134	2,369 (R1)	2,194 (R1)	92.6%	2,650 (R5)						
	農業産出額	①②⑤	H25	1,276	1,368 (R1)	1,195 (R1)	87.4%	1,534 (R5)						
	うち園芸	①⑤	H25	574	649 (R1)	520 (R1)	80.1%	744 (R5)						
	うち畜産	②⑤	H25	414	470 (R1)	444 (R1)	94.5%	550 (R5)						
	林業産出額	③⑤	H25	181	215 (R1)	211 (R1)	98.1%	240 (R5)						
	水産業産出額	④⑤	H25	386	412 (R1)	413 (R1)	100.2%	462 (R5)						
	付加価値額、交付金等	①②③ ④⑤	H25	291	374 (R1)	375 (R1)	100.3%	414 (R5)						

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等	平均評価
i 概ね 達成	<p>R1年の創出額は2,194億円で、概ね目標値を達成したものの、農業産出額の減により、3年連続で目標値を下回った。農業は1,195億円(△5.1%)で3年連続の減。特に園芸は、ねぎ類やトマト等で生産が拡大したものの、暖冬による生産量の増加で価格が低下したことなどから3.0%減少し、達成度が80.1%にとどまった。林業は211億円(±0%)。このうち木材は、堅調な国産材需要を背景に素材生産量が増加したこと等により5.5%増加した。きのこ類は、乾しいたけの単価低下等により、14.1%減少した。水産業は413億円(+7.0%)。このうち海面養殖業はクロマグロやブリ類の生産増により12.9%増加したが、海面漁業はイワシ類などの漁獲量減少により1.6%減少した。付加価値額は246億円(+7.4%)。このうち食品加工は、かぼす果汁や大麦の加工取扱量の増加等により5.6%増加した。木材加工は、合板工場の新規稼働により、15.2%増加した。交付金等は米政策交付金の交付面積拡大により112億円(+1.8%)となった。</p> <p>(農林水産業産出額の国の公表が約1年後となることから、R2年度の目標値・実績値にはR1年の数値を記載している。)</p>	概ね 達成

【IV. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・水田の畑地化による高収益な園芸品目等への生産転換に向けて、必要な排水対策等を支援した結果、目標を超える108haを転換できた。
②	・肉用牛の高付加価値化に向けて、著名人をPR大使として、SNSによるイベント等を行った結果、「おおいた和牛」取扱店が178店舗(+27店舗)に拡大した。 ・繁殖雌牛のゲノム育種価を畜産農家が評価に用いたことで、繁殖雌牛の能力が向上した。また、枝肉重量の増加が図られた。(+6.6kg)
③	・木材の素材生産量の増加に向けて、事業体に対し高性能林業機械の導入等を支援するとともに、路網整備や施業地の集約化に取り組んだ結果、認定林業事業体の主伐生産性は10.0m ³ /人・日を維持できた。
④	・養殖クロマグロの赤潮被害対策として、R1年度から赤潮密度の低い深層飼育を可能とする生け簀の開発を支援しており、R2年度は魚の衝突防止のため、網の視認性を改良し、死亡率が10%から2%に減少した。
⑤	・「大分県スマート農林水産業推進方針」に基づき、各部門毎にICT等の先端技術を活用した生産性向上・省力化技術を推進した結果、スマート農業技術の導入経営体数が508経営体(+6.5%)となった。

【V. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(2年度事業)	事務事業評価	
		成果指標の達成率(%)	掲載頁
①	農地中間管理推進事業	240.7	160
	大規模園芸産地形成促進事業	108.0	161
②	おおいた和牛流通促進対策事業	95.1	162
	繁殖雌牛生産能力向上対策事業	109.7	163
	肥育・繁殖牛生産性向上対策事業	100.4	163
③	林業事業体強化推進事業	100.0	164
	主伐・再造林システム構築事業	120.0	165
④	養殖マグロ成長産業化推進事業	200.0	165
	資源造成型栽培漁業推進事業	89.3	166
⑤	スマート農業普及拡大事業	101.6	167

【VI. 施策に対する意見・提言】

○大分県農業非常事態対策会議(R3.3) ・本県の産出額減少の要因として価格低下があるが、他県では産出額を伸ばしている、もしくは減少率を小さく抑えている。これは県の顔となる品目を有し、生産・販売対策をしっかり行っているからと考えている。	○大分県農業非常事態対策会議(R3.3) ・県と農業団体、生産者の連携が課題。大分県農業の総合戦略会議を作る必要がある。
---	---

【VII. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> ・農業総合戦略会議を設置し、生産者、農業団体、行政が一体となった改革に取り組む。特に規模拡大の大きな課題となっている農地の確保に向けては、早急に市町村等との協働体制を確立することで、ねぎ産出額100億円プロジェクト等の達成を目指す。 ・園芸品目の導入リスク等の軽減を図り、新たに園芸品目に取り組む生産者に対する研修を実施するほか、園芸品目の産地拡大に対応した出口対策を強化する。 ・畜産では、肥育牛の増頭が進んでいるが、依然として枝肉重量や歩留まり等の肉質改善が課題である。そのため、枝肉重量・肉質の向上、分娩間隔の短縮に向けた技術指導体制の強化を継続する。加えて、繁殖牛の導入支援による生産基盤の強化を図るほか、付加価値の高い枝肉生産を目指し、和牛肉のおいしさに着目した調査・研究を行う。 ・林業では、事業規模の拡大や再造林を行う事業体に対して、高性能林業機械の導入等を集中支援することで、中核林業経営体の育成を図る。 ・水産業では、資源管理の徹底や、養殖クロマグロにおける深層型生け簀を活用した養殖手法の確立、これまでに確立したブリ人工種苗生産技術を活用した通常採卵期とは大きく異なる8月の採卵による人工種苗生産を行うなど、生産・流通体制の強化に取り組む。